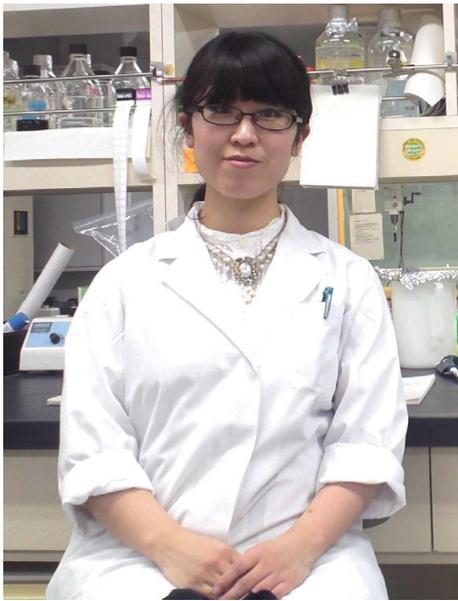


研修医1年目の近況報告 (28期生)

研究生活、早半年

九州大学医学研究院ウイルス学分野博士課程 谷口 緑



琉球大学医学科同窓会のみなさまこんにちは。27期として入学し、28期として無事に今年卒業いたしました、谷口緑と申します。私は卒業後、初期臨床研修を受けず、故郷である福岡の九州大学大学院へ進み、ウイルス学の実験に励む毎日を送っています。

大学へ入る前から「研究」というものに漠然とした興味やあこがれはあったものの、勉学に真正面から取り組もうという気概を持ったことなかった私には関係のない世界だと思いながら琉大での学生生活前半は過ぎてゆきました。留年して解剖学実習を2回経験したことで『個体差』『個人差』というものを実感して解剖学に興味を抱くようになり、MD-PhDコースで大学院へ進もうと考えましたが、家庭の事情で断念（石田先生と木村先生

には多大なるご迷惑をお掛けいたしました）。卒業後は沖縄で初期臨床研修をすることも考えましたが、九大が実家から通える距離にあったこと、一つのことを何年もの時間を費やして取り組んでみる決断を何年か後にできるかはわからないと考えたこと、そして縁あって今の研究室を見学させていただけたことがあり、進学を決意しました。

現在私が毎日を過ごす九大のウイルス学教室には、医学以外のバックグラウンドを持っておられる先生方や臨床医である大学院の先輩方がおられ、とても新鮮で刺激がいっぱいです。また、子宮頸癌がヒトパピローマウイルスにより引き起こされることを立証し2008年にノーベル賞を受賞されたHarald zur Hausen博士が福岡に来られていた折に、私が行う予定の研究について英語で発表をさせていただく機会があったことも非常に貴重な経験でした。

本格的に研究を始めて半年、まだ右も左も、時に前や後ろさえおぼつかない状態です。いま取り組んでいる研究がどのような方向に進むかわからない部分も多く不安もありますが、どうなるかわからないということでワクワクもしています。実際はうまくいかないことが大半なのですが、求めている結果が得られて次のステップへ進めるときの喜びはひとしおです。苦しい時期もやってくると思いますが、時間をかけて一つのことに取り組んでみたいという決意を大切に、一日一日を過ごしていきたいです。